

パネルディスカッション

AI時代の働き方改革—企業とアナリストの取り組み—

＜パネリスト（五十音順）＞

青野 慶久

（サイボウズ株式会社
代表取締役社長）

佐々木 かをり

（株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長、
株式会社ユニカルインターナショナル 代表取締役社長、
国際女性ビジネス会議実行委員長）

塩原 邦彦 CMA

（三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
リサーチ担当役員補佐 インベストメントリサーチ部長）

■司会者

山本 高稔 CMA

（株式会社日立製作所 社外取締役、
東京エレクトロン株式会社 社外監査役）

目

1. 自己紹介と自社の企業戦略
2. AIに対する人間の強み、アナリストの強みとは何か

次

3. 働き方改革が日本の労働生産性改革に資する可能性
4. 高度プロフェッショナル制度と働き方改革

1. 自己紹介と自社の企業戦略

山本 2年前（2016年）に「AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト」というテーマでパネルディスカッションを行ったが、この2年間でAI・IoTをめぐる開発、広範な分野での応用が著しく進展している。一方、働き方改革も進められており、2018年6月29日には、働き方改革関連法が成立した。柔軟な働き方を想定した環境整備を進めて労働時間を短縮し、充実した生活時間を確保

することが重要としている。そして、ITの高度化と活用によって仕事の進め方を工夫し、先進国で最も労働生産性が低い日本の働き方を見直すとしている。現在は、生産性を上げて「稼ぐ力」を復活させ、更に高めるということが不可欠な課題となっている。

今回は、このようなことを踏まえて、改めて、AI時代の働き方改革に対する企業とアナリストの取り組みについて討論する。具体的には、AI技術の進歩に伴って人間の働き方や職の在り方がど